

# 株式会社川口スプリング製作所

～国内トップシェアにも驕らず研究開発と顧客ニーズ発掘に邁進～

**業**界トップシェアを誇る化粧品やシャンプー容器のポンプ用ばねから、各種工業機械に使われる特殊なばねまで、幅広い用途に対応したスプリング製造と、携帯電話やデジタルカメラの本体、自動車部品などを塗装仕上げする自動塗装機製造を基幹事業にしている。スプリング事業では顧客満足度を高めるための研究開発を、自動塗装機事業は自社設計、自社製作体制を基盤に、徹底して顧客ニーズを追求。栃木県内の研究開発施設を中心に新たな技術を開発するとともに、社員研修の拠点として人材育成にも力を注いでいる。

**創**業は1956（昭和31）年。機械製造業がひしめく川口市の立地を生かし、菅野茂会長が工業機器部品の押しばね、ひねりを復元させるトーションばねの製造を始めた。用途が建設機械や各種製造機器、製本機械とあって少量多品種に対応、3～4ミリ径の線材を中心にしてきた。その後、より細材を使った船舶ディーゼルエンジン用のピストンリング、太めの線材を使う箱型貨物自動車の跳ね上げ側面扉のあおり用ばね製造へと拡大。トラック



株式会社川口スプリング製作所本社

荷台のあおり用ばねは現在、国内シェアの約6割を供給している。1980年代に入り、需要の変化に応じて100分の1ミリ単位の線材を使った精密スプリングの製造に着手。筆記用具、弱電用の精密部品にも取り組んだ。その後の生活用品のシャンプー、化粧品容器のポンプ用ばねの製造につなげ、中・太物中心から細物へと業容を拡大していった。なかでも、ステンレス鋼材を使った化粧品などのポンプばねは、国内シェアの8～9割を占め、内容物の成分に耐える不動態化処理技術とあいまって、ゆるぎない地位を築いている。

一方、化粧品容器や携帯電話機本体の塗装にも使われる自動塗装機は、1970（昭和45）年に製造をスタート。板ばねやコイルばねを供給していた玩具メーカーからの要請がきっかけだった。スプレーガンや塗装ロボットといった部品は専門企業に委ね、システムの設計から電気系統、機械部分の製造を自社で行う体制を築いた。こうしたアプローチが、高品質塗装に適したUV自動塗装機の開発、小物の蒸着工程や大物を扱うロボット塗装ラ



各種の圧縮コイルばね

インの製品化につながった。塗装方法もガラス容器向けの静電塗装など製品用途に合わせて幅広く対応。省スペースで高機能を実現する自動塗装機の小型化にも取り組んでいる。鬼塚博幸社長は「化粧品容器用の塗装機械としては国内で8割のシェア」と語り、近年売り上げの6割を占めるまでに成長した自動塗装機事業に期待を寄せる。

**海**外進出にもいち早く取り組み、東南アジア各地で開催された展示会出展を機に、1999年にタイ、2001年、2004年に中国と相次いで100%出資の現地法人を設立。スプリングと自動塗装機事業の拠点工場を計3か所設置。中国では大連工場、東莞工場を開設して国外での製造、販売に努めている。2012年にはタイのスプリング工場を拡充した。

**ス**プリング事業は高精度の追求にとどまらず「用途に応じた精度」に対応することが重要と言う鬼塚社長、自動塗装機事業については顧客が求める「新たな方式の開発」を課題に挙げる。こうしたなかで、顧客要望を実地に検証できる施設として2007年、栃木県塩谷町のヤイタ工場内に、塗装機の研究開発施設・



細線用のコイルリングマシン

D&Tセンターを開設した。実機をはじめ開発中の機械が見学用に稼働展示され、顧客から依頼を受けた製品や塗料を使って試験塗装することもできる。昨年暮れには同敷地内に研修施設を開設し、人材育成の一環として社員研修に活用している。

**「キ**ャッシュフローの確保と足元の経営をしっかりと行うこと」が最大の使命、と語る鬼塚社長。社訓に掲げる『逃げるな』『嘘をつくな』『数字に強くなれ』『スピード』の4点を、国内外の従業員に徹底したい」と強調した。

## 企業概要

- 会社名 株式会社川口スプリング製作所
- 代表者 鬼塚 博幸
- 設立 1956年
- 資本金 8,000万円
- 従業員 70人
- 事業内容 各種スプリング、自動塗装機、塗装治具等の製造
- 本社 川口市青木3丁目10番19号
- 電話番号 048-252-1234 FAX 048-252-1238
- 取引店 川口支店



鬼塚 博幸社長